

— 学生と社会人で構成されたチームだからこそ、そういった問題が出てきたわけですね。

— 茨城チームは毎年、良い選手が他のチームに抜けてしまう。そのため、1から始めなければいけない…。それに加えて、社会人選手は仕事があつて練習に來られないこともあつて、学生選手がそれに不満を持ち、壁が出来てしまうこともありました。

— 今大会までの1年は、どんな道りでしたか。

4年生最後の全国大会だったので僕にとって集大成となる大会でした。悔いのない試合ができたと思いますが、最後はやっぱり優勝しなかったという心残りがあります。

— 前年度優勝し、連覇がかかった今大会でしたが、惜しくも4位。振り返ってどんな大会だったのでしょうか。

茨城県のデフサッカー代表、そしてキャプテンの杉本大地（すぎもと だいち）選手。デフサッカー日本代表候補でもある彼は、今年9月、全国大会2連覇をかけて戦った。来春には社会人となる彼だが、大会が終わった今も、サッカーに対する向上心は尽きない。

## Daichi Sugimoto

兵庫県 / age22  
FW / #10



# Deaf Football

## 音のないサッカー

デフサッカーを知っていますか。

それは、耳が聞こえない人たち（聴覚障がい者）のサッカー。音のないフィールドの中で、彼らは手話でのコミュニケーションやジェスチャーによって意思疎通を図ります。

味方のコーチングではなく、「自分の目で観る」ことによって、常に敵や味方の位置を把握し、プレーします。

— そんな苦労を乗り越えて、今大会で得たものは、何でしょう。

茨城チームは関東の中でも弱いと言われていて、一番強いのは東京チーム。その東京チームと準決勝で戦いました。東京チームには日本代表に選出される選手がたくさんいます。試合前は、東京チームと戦ってもボロ負けするんじゃないかと思っていました。結果は2-3。負けてしまいました。この大学4年間で、茨城チームとしてやってきた試合の中で、一番良い試合ができ、負けたけど悔いがない試合でした。自分たちらしいサッカーをすれば、点が入って

— 自分より年上の社会人選手たちに喝を入れるのは、言いづらい部分もあったのでは？

自分が前年もキャプテンをやっていたら言えなかったと思います。しかし、キャプテンになって2年目でしたから、みんなのことを思っで、年齢関係なく、怒りました。

はい。その壁をなくすにはどうしたら良いのか、自分なりに考えて、社会人選手には喝を入れて怒ったり、学生には、「社会人選手たちが仕事で來られないのは仕方ないことだから、自分たちが社会人の分までがんばろう！」と、意識を高く持ちながらやっています。

— 一番印象に残っていることは？

印象に残っているというか、一番楽しかったのが、大阪チームと対戦することがあったのですが、実は僕の2つ下の弟が大阪チームにいるんです。大学4年間で初めての対決でした。その試合には僕が7-1で勝ちました。弟はあきらめずにがんばっていた選手の一人で、それを見て、自分も手を抜かずに頑張ろうと思って最後まで戦いました。たまたま弟と1対1で対決する場面があつて、僕が弟のボールを奪ったのですが弟は負けじと僕の服を引っ張ってきました。そして、そのプレーがファールになりました。

— そんな苦勞を乗り越えて、今大会で得たものは、何でしょう。



↑ 全国大会前の締めの様子

— 兄弟対決に見事勝利したわけですね。

弟の方が先にサッカーを始めたので、小学生の頃は弟の方が上手くて負けてばかりだったんです。だから、嬉しかったです。

— そんな杉本選手の今後の目標は？

デフサッカーの日本代表になって、点を決めないといいなところでしょうか。決めるFWになりたいたいと思っています。日本代表に選ばれることが目標ではなくて、選ばれた後、結果を残せる選手になることが、僕の今の目標です。

現在大学4年生の杉本選手。来春4月からは愛知のチームでサッカーをすることが決まっている。就職先は、アイシンAW。車のエンジンやカーナビの部品を設計したり、組み立てる仕事をするそう。今後も彼の活躍に期待したい。

7つの障がい者サッカー競技団体と日本サッカー協会（JFA）が協議を重ね、2016年4月、「日本障がい者サッカー連盟（JIFF）」が設立されました。サッカーなら、どんな障害も超えられる。  
(http://www.jiff.football/)